

様式2 【生活様式などの無形のもの】

ふくしまの森林文化調査カード

県 HP公開 (可・否)

区分	1. 森づくり 4. 森と暮らし	2. 森の恵み 5. 森の文化財	3. 森と技 6. 森の風景
分野 (ふりがな)	(分野) 信 仰	(ふりがな) しんこう	
地域独特の呼び方	—	—	
タイトル	ハヤマ信仰 (祭り)		
伝承地域	飯館村大倉		
由来	<p>(いつ、どこで、誰によって起こり、どのようにして現在まで (いつまで) 伝えられてきたか)</p> <p>福島県内にはハヤマと呼ばれる秀麗な山が点在し、豊作を祈る信仰がある。ハヤマは阿武隈山地に多く分布し、羽山、葉山、端山、麓山などの字をあて、奥山に対する端山の意である。信仰の対象は山そのもので、古態を保つものには社殿はない。</p>		
内容	<p>祭りは、錫杖 (しゃくじょう) の合図で僧侶が唱える「般若心経」の読経で始まる。これが終わると全員で「おのっと」を数回繰り返し礼拝して終わる。この間、宣童は合掌したままている。これが終わると、神事に参加する者全員で控えの間で餅 (あんこ餅、豆腐餅、くるみ餅) の夕食をとる。餅は材料を籠もり人が持ち寄り、自ら料理をする。女人禁制のこの祭りは、食事に至るまで決して女性には手を触れさせない。使用する箸は、前日葉山から伐ってきた竹で作られ、祭り中使用し翌日のお山かけの際、藁の苞に入れ、中腹の「箸神社」に納める。食事が済むと、祭りに先立って、ノリワラ (宣童) と2、3人の大人の籠もり人達は寺の脇の沢をせき止めた「大槻堀」で3度、水をかぶる。潔斎したノリワラと籠もり人は、神前に座る。次にノリワラにハヤマの神を憑け、「火つるぎ」を経てノリワラの儀に入る。3人の僧侶は般若心経を唱え、籠もり人達は「おのっと」を唱え始まる。祭壇の方を向いていたノリワラは、正座のまま後ろ向きになり、籠もり人、参詣者に相對する。</p> <p>主祭者の僧侶がノリワラに向かって「何神がおつきになりましたか」と尋ね、ハヤマの神が憑いたことを知る。</p>		
文化財等の指定状況	—		
問い合わせ先	飯館村教育委員会	電話0244-42-1611	

【継承活動を行っている方がいる場合】

個 氏名 (ふりがな)		※顔写真が有ります
-------------	--	-----------

	性別・年齢 生年月日	男 ・ 女 歳 明治・大正・昭和・平成 年 月 日 生	したら、コピーか電子ファイルをご恵 願います。(貼り 付けずに、名前がわ かるようにして同 封ください。)
	住所・電話	〒 電話	
	職 業		
団 体	団体名 (ふりがな)		
	代表者氏名 (ふりがな)		
	団体の設立年月日	明治・大正・昭和・平成 年 月 日	
	問い合わせ先		電話

【フリーフォーマット】

キーワード

<水垢離をするノリワラ（宣童）と籠もり人>



(飯舘村教育委員会)